

履修系統図

		看護を実践する		人とつながる	健康とつながる	社会とつながる	未来につながる	
		看護の原理	ライフプロセスと看護	産業看護	ヒューマンケア・看護倫理	統合体としての人間と健康	ヘルスケアシステムと看護	教養とキャリア発達
到達目標		看護の本質を理解し、看護の専門性・責務を自覚するとともに高度な知識と技術に基づき看護を実践できる能力を育てる。	人の成長と生活を軸としたライフプロセスにおける健康課題を理解し、あらゆる健康レベルの人々の健康とQOLの向上に向けて看護実践できる能力を育てる。	産業看護の知識・技術をもとに、働く人々の健康支援をあらゆる看護実践の場において実践できる基礎を育てる。	豊かな人間性と高い倫理観を持ち、看護の対象となる人々と良好な人間関係を形成し、ヒューマンケアができる能力を育てる。	身体的、精神的、社会的に統合された存在としての人間の健康を環境とのダイナミックな関係において捉え、生活者の視点から看護援助できる能力を育てる。	変化する社会状況を捉え、国際的視野で看護を考えるとともに、ヘルスケアシステムにおける健康支援の政策や展望を理解し、保健・医療・福祉の各専門職と協働して人々および地域の健康に寄与できる能力を育てる。	幅広い教養と広い視野での見識を育て、それを基盤に看護を主体的に学び続け、看護の課題を創造的に追求する基礎能力を育てるとともに将来看護専門職としてキャリア発達できる基礎を形成する。
	4年	後期 前期	看護管理・看護マネジメント論 高度実践看護学入門 助産管理 統合実習	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠） 助産診断・技術学Ⅱ（分娩） 助産診断・技術学Ⅲ（産褥・新生児）	助産学実習	看護実践と自己洞察	周産期医学	災害看護学 地域看護活動論Ⅳ（政策・組織化、社会資源開発）
3年	後期		成人看護学実習Ⅰ（急性期の看護） 成人看護学実習Ⅱ（慢性期の看護） 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習	産業看護活動論Ⅱ				研究演習Ⅰ（文献読誦）
	前期	看護リスクマネジメント 在宅看護学 地域看護活動論Ⅱ（地区診断）	成人急性期援助論Ⅱ（救急看護） 老年看護援助論Ⅱ（高齢者の健康障害と看護） 小児看護援助論Ⅲ（子どもの健康障害と看護） 母性看護援助論Ⅱ（周産期の看護） 精神看護援助論Ⅱ（精神障がいと看護） 助産学概論	産業看護活動論Ⅰ	コミュニケーション論Ⅱ 看護倫理 看護カウンセリング	健康教育論	専門職連携 国際看護学 地域看護活動論Ⅲ（地域の健康支援Ⅱ・危機管理） 地域の保健医療・看護・福祉の現状と課題	看護教育・キャリア発達論 国際関係論 看護研究
2年	後期	基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助） 看護技術論Ⅱ（診療に伴う技術） 看護過程論 家族看護学 学校看護学 地域看護活動論Ⅰ（アセスメント・地域の健康支援Ⅰ） 基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） コミュニケーション実習	リハビリテーション看護論 成人急性期援助論Ⅰ（周手術期看護） 成人慢性期援助論Ⅱ（慢性期・終末期の援助論） 老年看護援助論Ⅰ（高齢者の健康を支える看護） 小児看護援助論Ⅰ（子どもの健康を支える看護） 母性看護援助論Ⅰ（母性のライフステージと看護） 精神看護援助論Ⅰ（こころの健康と看護）		ケアリング論	治療学Ⅲ（精神・行動障害） 治療学Ⅳ（小児・女性）	保健医療福祉行政論 疫学	
	前期	看護技術論Ⅰ（日常生活行動援助） 地域看護学概論	成人慢性期援助論Ⅰ（慢性期・終末期の対象理解） 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論	産業看護学概論	人間関係論 コミュニケーション論Ⅰ	治療学Ⅰ（循環消化代謝防御） 治療学Ⅱ（運動・生活）	公衆衛生学 ヘルスケアシステム論 国際看護事情	
1年	後期	ヘルスアセスメント 看護対象論（患者から学ぶ）	成人看護学概論		ジェンダー論	基礎病態学 内部環境の調節 健康と生活行動の科学 健康社会要因論 保健医療統計学 診断・治療学概論	社会医療福祉論	法学（日本国憲法を含む） 経済学 化学 統計学 基礎セミナーⅡ 医療英語コミュニケーション コンピューターリテラシーⅡ（応用）
	前期	看護学概論 看護技術概論	人間発達学		心理学 倫理学（人権を含む）	健康科学概論 人体のしくみと働き 健康スポーツ		哲学 少子高齢社会論 環境科学論 科学的思考論 生物 基礎英語 コンピューターリテラシーⅠ（基礎） 基礎セミナーⅠ 地方自治論 ボランティア論 情報科学概論

カリキュラム区分の目標・学年別到達目標

区分	1 看護を实践する			2 人とつながる	3 健康とつながる	4 社会とつながる	5 未来につながる	
目標	1 看護の原理	2 ライフプロセスと看護	3 産業看護	4 ヒューマンケア・看護倫理	5 統合体としての人間と健康	6 ヘルスケアシステムと看護	7 教養とキャリア発達	
到達目標	4 年次	<ul style="list-style-type: none"> 看護サービスの効果的提供のための看護組織とマネジメントについて理解できる。 看護の学びを通して自分なりの看護観を形成する。 さまざまな看護場面におけるさまざまな対象者に応じた看護の役割・活動及び専門性を実践するために、統合的に考え、安全で総合的・統合的に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人、家族、集団の健康レベルの回復、維持、増進をはかるために、統合的に考え、看護が実践できる。 女性および女性を取り巻く地域社会の健康の保持・増進を図るために、統合的に考え、安全で確実な助産の実践ができる(助)とができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業看護学の知識・技術を基礎として、働く人々(個人・集団)、組織の健康の回復・保持・増進のセルフマネジメントへの支援を実践ができる。(保) 産業の場における保健看護活動の現状と課題について理解できる。(保) 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な看護場面から他者のこころを理解すると共に自己理解を深め、ヒューマンケアにおける人間関係について考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康概念の観点から対象者の生活の支援を総合的に評価し、考察することができる。 健康概念の観点から対象者の生活の支援を総合的に評価し、考察することができる。 地域の健康課題を解決・改善し、地域の健康推進能力を高めるための実践ができる。(保) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を解決し、自己の関心のある看護の課題をさらに追求することができる。 看護専門職としての将来の自分像を考えることができる。 	
	3 年次	<ul style="list-style-type: none"> 対象に応じた看護の過程を実践できる。 地域の健康課題を多角的にアセスメントし、解決・改善に向けて支援を計画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフプロセスの各ステージにおける個人、家族、集団の健康課題をアセスメントし、健康レベル、看護の場面、個人、家族、集団に応じた看護援助を実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> いずれの看護分野においても、労働の視点を持って、対象者の健康状態をアセスメント・計画・実施・評価できる 産業保健専門職チームの一員としての産業看護の専門性を発揮した支援について理解できる。(保) 働く人々それぞれに応じて、労働と健康の調和をはかり、心身ともに健康で充実した職業生活を送るための働く人々に応じた具体的な支援について考えることができる。(保) 	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる人々の尊厳や権利を守る行動がとれる。 基本的なヒューマンケアにおけるコミュニケーションスキルを身につけることができる。 共感的態度を身につけることができる。 対象となる人々と良好な人間関係を創ることができる。 看護場面で出会う倫理的問題について、既習の知識や自身が形成してきた看護観を基に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の生活、文化等の視点から疾病の予防、健康の回復、維持増進、安らかな死への支援の根拠を実践を通して確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各国のヘルスケアシステムおよび健康支援に対する看護の役割を考えることができる。 保健医療福祉の専門職の役割を尊重し、対象者の健康福祉の向上のために相互に連携する重要性を理解し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ学問分野の知見をもとに自分の思考や価値観を構築することができる。 学んだ学問分野の知見を実践に生かすことができる。 看護の課題を創造的・研究的に追究する基礎を形成する。 看護者の役割モデルを見出すことができる。
	2 年次	<ul style="list-style-type: none"> 対象者のもつ健康問題を看護学的視点からアセスメントし、解決に向けて計画的、理論的、実践的に展開する方法を理解できる。 日常生活行動の援助技術を習得する。 診療過程にかかわる看護の基本技術を医療の安全の視点から習得する。 看護の対象としての家族の特性、家族の抱える健康問題および援助の方法を理解できる。 看護の対象として地域の特性、地域に生活する対象者の健康課題を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフプロセスにおける個人、家族、集団の健康課題を理解し、援助の方法を考えることができる。 看護の多様な活動の場、あらゆる健康レベルにおける各ライフステージにおける対象者および家族、集団への看護援助の特徴と方法を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業保健、産業看護の目的について理解できる。 働く人々(個人・集団)の健康課題を理解し、それらが密接にかかわっていることを理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 医療、看護における倫理的感性を養う。 人間の成長発達、成熟に関与する人間関係についての基礎的な知識や理論について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康障害の病態生理を理解できる。 人々の健康にかかわり医療の役割を理解できる・健康関連事象を保健統計より現在の健康課題を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会、共同体における健康生活について理解できる。 日本におけるヘルスケアシステムについて理解できる。 異文化を理解し、多文化社会における看護の重要性について理解できる。 看護活動を通しての地域への貢献を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな学問分野の学びを深め、広い視野での教養と見識の基盤を身につける。
	1 年次	<ul style="list-style-type: none"> (看護の活動や看護者の役割を学び、)看護についての関心を持ち理解できる。 看護の概念、本質、機能、役割を学び、看護の専門性について考えることができる。 看護の対象について看護学的視点から理解できる。 看護の基本技術の要素をヒューマンサイエンスの視点から学び、安全で的確な看護の基本技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の成長発達の原理・プロセス、各発達段階の特徴、発達課題について理解できる。 ライフサイクルにおける個人、家族、集団の特徴について理解できる。 		<ul style="list-style-type: none"> さまざまな学問分野を学び、豊かな人間性を育てる。 人間の尊厳と権利の尊重について理解できる。 人間社会、人の暮らしや生活について広い視野から関心を広げ考える。 人と人との関係、自分と他者との関係について関心を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 統合体としての人間を理解できる。 環境との相互作用の中で健康の成立、あり方を考えることができる。 文化、経済(貧困)、労働環境や労働状態、社会の仕組み等社会の様々な視点から健康を考えることができる。 自分自身の健康づくりをとおして、健康について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化する社会状況をとらえる基盤となる社会の成り立ちについて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学教育にスムーズに適応し、大学生として主体的に学ぶ態度と学習技術を身につける。 知的な好奇心をもち、さまざまな学問分野を学び、教養と感性を育てる。 社会の一員としての自己管理能力、倫理観を身につけ、社会的責任を自覚することができる。
目標	1 看護の原理	2 ライフプロセスと看護	3 産業看護	4 ヒューマンケア・看護倫理	5 統合体としての人間と健康	6 ヘルスケアシステムと看護	7 教養とキャリア発達	